

2025 年度 事業報告 総括

I. 総括

震災 30 年という節目を迎え、CS 神戸は創設者の中村順子理事長から飛田敦子氏・星野裕志氏二名の代表理事へ代表権を持つ理事が交代する重要な一年となりました。組織内外のご協力のおかげでスムーズに新体制へ移行することができました。関係各所より中村氏への労いのお言葉、及び飛田氏・星野氏への激励のお言葉を多数いただきました。中村氏は今後もファウンダーとしてミッションの継承と後進の育成に携わります。

このように新体制に移行しながらも、「尊厳」や「主体性」の意味を込めた【自立】と、「包摂」や「コラボレーション」の意味を込めた【共生】を理念として掲げ、地域課題解決型の団体の創出に一層アクセルを踏み込み前進する一年となりました。初めて内閣府や休眠預金活用事業に採択され、国・県・市・区の全ての行政レベルで活動を実施することができました。ミクロレベルでの生活者としての視点を大事にしつつ、広域的で政策形成にかかる国のプロジェクトを実施することで、多くの学びがあり、中間支援の役割と視野の広がりを得ました。また、4つの活動拠点それぞれが良さや特徴を活かし、地域人材の掘り起こしや地域活動団体創出の拠点としての力を発揮しました。全体の要になる法人本部と各拠点の協働によって実施したプロジェクトも複数あり、CS 神戸の総合力を高める一年となりました。

II. 2025 年度当初に設定した「3つの基本方向」についての振り返り

1. 事業について

- ①内閣府事業を中心に、神戸市東部における地域活動人材のマッチングプラットフォームを構築する
- ②4 拠点において CS 神戸の地域活動団体創出プロセスを実践しノウハウを共有する
- ③ケース・メソッド方式による地域活動プロデューサー養成講座を将来の自主事業に見据えて実施する
- ④NPO・地域団体・行政・企業・学校など、多様な主体と対等なパートナーシップのもとに、地域課題解決のためのプロジェクトを実践する

内閣府調査事業「都市型ごちゃまぜプラットフォーム構築事業」では、約 30 年間の活動で蓄積されたノウハウを活かし、新たな地域活動人材の掘り起こしとマッチングを行いました。これは4拠点における知見や経験が基盤として活かされたことによるものです。JR 住吉駅前駐輪場の運営においては、市の検討会に参画し、公共サービスにおける NPO の役割を訴えることで、その良さが市に認識されることにつながりました。

一昨年より取り組んでいる自主事業づくり「ケース・メソッドを使った地域プロデューサー養成講座」では、地域のニーズとシーズを組み合わせ地域課題の解決をプロデュースできる人を養成するもので、自主事業の柱となることを目指し、年々改良を重ねています。

2. 資金について

- ①CS 神戸のミッションに合致する事業委託や助成金には積極的に挑戦し CS 神戸の基盤事業とします
- ②一昨年より実施している「ケース・メソッドを用いた地域プロデューサー養成講座」を自主事業として発展させます
- ③「ごちゃまぜかふえ」による企業寄付や、あすパークでのガバメントクラウドファンディングの仕組みを活用した寄付集めなど、応援資金の獲得を目指します

複数年契約である休眠預金活用事業の採択を得たことにより、中長期的かつ安定的な資金の見通しを立てることができました。また、多様な応援資金集めにもチャレンジしました。第一に神戸市東部の地元企業からの寄付金を 10 の常設居場所に充当する「ごちゃまぜかふえ」の取り組みを通じ、ネットワークで資金を集める仕組みづくりをしました。第二に神戸市の認定 NPO 法人向けのふるさと納税を活

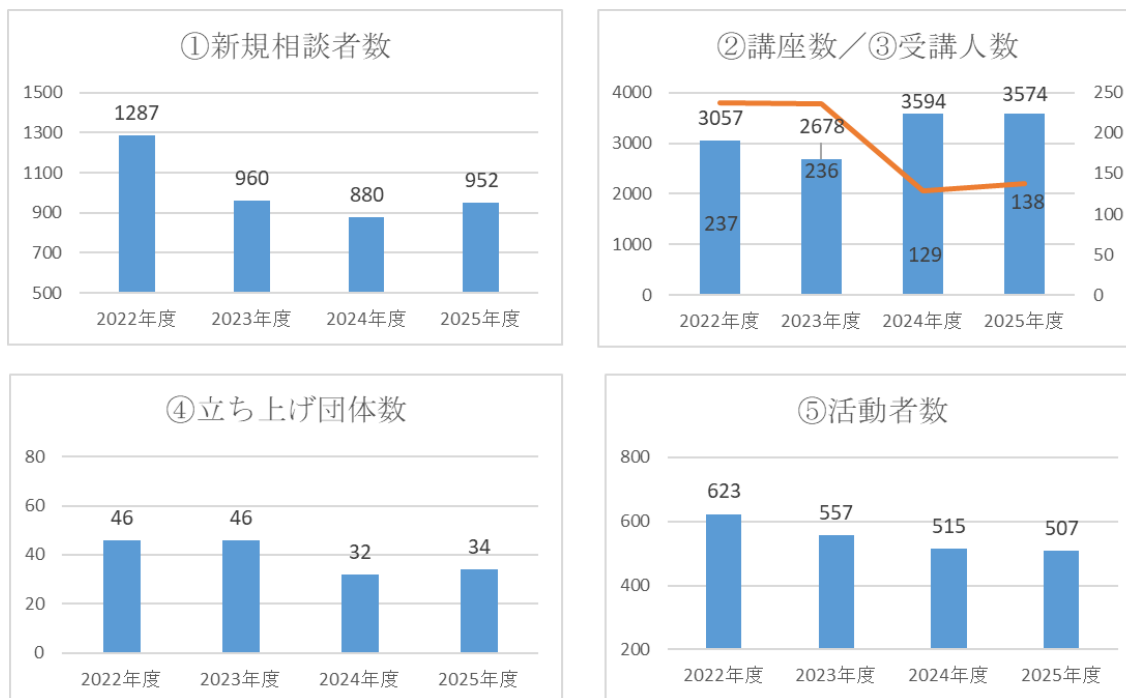
用したガバメントクラウドファンディングのプラットフォームを活用し、あすパークのクラウドファンディングに挑戦した結果、約 80 万円の寄付金を集めることができました。

3. 組織体制について

- ① 理事会と事務局が一体となって、スムーズに体制変更が進むよう努めます。
- ② 各事業のマネージャーが中心となり、独自の企画や外部資金の獲得に自立的にチャレンジするとともに、CS 神戸の総合力が発揮できるよう、事業間連携を進めます。

理事会や各拠点との協力のもと、スムーズに新体制への変更を進めることができました。昨年度に引き続き各拠点が工夫し独自の資金源の獲得を行いました。事業部間の連携については、事業部のマネージャーやサブマネージャーが本部の人材養成研修に関わりサポートすることで、事業部間のノウハウの共有ができ、結果的に CS 神戸の総合力を高めることにつながりました。

Ⅲ. データで見る成果



多くのセミナーを通じて、充実した人材育成ができた以外ほか、数字に大きな伸長はないものの、今後の活動につながる成果を残すことができました。

実績 : ①新規相談者数 952 名、 ②講座数 138 本、 ③受講人数 3,574 人
 成果 : ④立ち上げ団体数 34 団体、 ⑤新規活動者数 507 名

Ⅳ. 財務状況

事業規模は当初予算に比べ約 160 万円増の 7,900 万円となり、収支差額はマイナス 230 万円に対し約 12 万円で着地しました。大きな原因は期中で休眠預金事業が決まったことによるものです。わずかな黒字で着地したことから、今後事業規模だけではなく、安定的な自主事業を確立することの必要性を痛感しました。

事業報告

1 総務総括

広く中間支援組織や地域活動の役割や魅力を発信するとともに、CS 神戸の総合力が一層高まるように各事業部をバックアップする

今年度は、中村理事長から飛田・星野代表理事 2 名体制への変更に注力した一年となりました。定款変更、市での縦覧、臨時総会などを経て、12 月に登記完了、1 月に対外発表を行いました。理事長の退任が新聞に掲載されるなど反響は大きく、労いや激励の言葉を多数いただきました。

広報の面では SNS を活用した情報発信に力を入れ、講座等の告知のみでなく報告や成果を広く発信することで CS 神戸のファンづくりに努めました。

2 視察・研修（補足資料あり）

昨年度に引き続き、県内外を問わず、また海外からも計 10 件 40 名の視察を受け入れました。また、学生インターン・トライやるウィークについても 7 件 16 名の受け入れを行い学びの場を提供しました。

3 講師・委員等派遣（補足資料あり）

ネットワーク構築及び拡充、スタッフのスキルアップの機会と捉え、今年度は 43 件 69 回の講師派遣と、行政民間を含め 23 機関に委員、審査員、アドバイザーやオブザーバーとして参画しました。

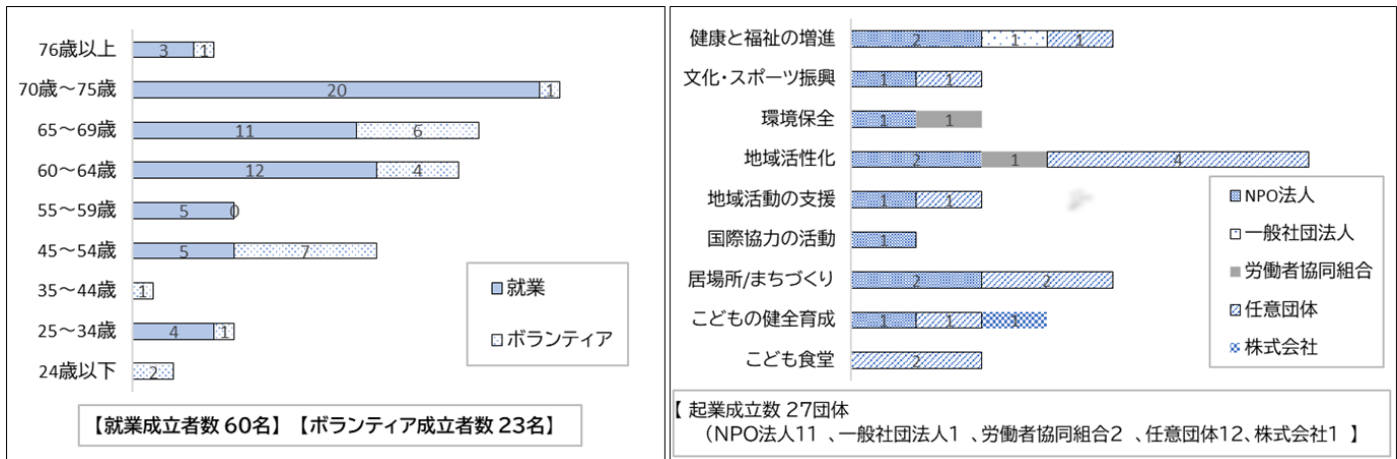
事業報告 — 市民活動支援部 —

4 地域しごとサポートセンター事業（兵庫県補助事業）

県内の地域しごとサポートセンターと連携し、互いの強みを活かし共に成長しながら、地域課題の解決に取り組む多様な主体の創出および運営を支援します。

地域間交流による起業支援として、研究会とトライアルの実施支援を行いました。他の地域しごとサポートセンターと地域団体に呼びかけ「兵庫ふるさとトリップ研究会」を組成し、多自然地域と都市部における交流事業の可能性や地域間交流による仕事創出について意見交換を行いました。4～12 月には神戸発の交流ツアーや交流会を実施し、125 人・34 団体が参加、新たな関係性が構築できました。それらの交流の中で、多自然地域における地域おこし協力隊の起業支援につながった事例も生まれました。今後どのような枠組みで交流事業と起業支援・仕事創出支援を組み立てていくかが課題です。

また、シニアを中心としたチームジョブ支援では、企業への仕事の掘り起こしから仲間集め、チームづくり、運営支援まで段階的に支援し、ポスティング業務を専門に請け負うシニアグループやこども園での周辺業務を担うチームの立ち上げをサポートしました。就業相談事業では相談者 480 人中 60 人（前年度比 94%）が就職に至りました。起業相談では相談者 315 人のうち、中学生の部活の地域移行（コベカツ）関連や地域活性化を促進する団体を中心に 27 団体（前年度比 108%）が立ち上がりました。



5 神戸市NPO法人設立運営相談窓口（神戸市委託事業）

市との契約の都合で5月からのスタートとなりました。全市が4分割されて2事業年度目で、引き続き東西2ブロックの委託を受け、個別対応相談件数は東 204 件・西 71 件、合計 275 件で、12 ヶ月換算では 300 件となり、昨年実績 309 件に近い数値となりました。実際には開設設定日（週 3 日）以外にも柔軟に対応し、結果的に 8 団体の設立をサポートしました。市への報告書作成の相談会には東西で 10 団体、西窓口のNPOの作り方講座には、オンラインを含めて 23 名の参加があり、アンケートから高い満足度の評価を得ました。特に設立経験者からの事例紹介の重要性が確認できました。



【設立経験者による事例紹介】

6. 灘区地域活動人材育成事業（灘区委託事業）

灘区の地域人材育成事業として2期目となる「なだ実践ゼミ」の企画運営を行いました。地域課題に取り組む新たなグループの創出を目的に、視察先の増加などの内容の拡充に加えフォローアップコースを併設し、1期生と2期生の交流によるシナジーを生み出す工夫を実践しました。講座・ゼミでは、灘区の実態と地域ニーズを明らかにした地域カルテを基本に、高齢者・子ども、居場所、多文化共生、防災、企業連携、環境をテーマに全10回の実践的なカリキュラムを導入しました。また、フォローアップコースとはうち5回を合同講座とし助成金や資金・組織運営を共に学ぶ機会としました。参加者は本コース19名、フォローアップコースは4名で、地域ニーズの把握や知識の習得、インターン、グループづくり、トライアル、事業計画・収支計画の各プログラムを経て、「多世代交流での地域福祉センターの活性化（高齢者・子ども・居場所）」、「多文化共生」「防災食づくりで防災・環境整備（防災・環境・企業連携）」の3つの団体が立ち上がり準備に入り、年に数回のゆるやかなペースで活動する予定となっています。



【防災食づくり トライアルの様子】



【なだ実践ゼミ第2期 最終回】

NEW 7. 都市型多層ごちゃまぜプラットフォーム（PF）調査事業（内閣府委託事業）

内閣府による「多世代参画による地域活力プラットフォーム構築調査事業」の全国 5 地域の一つとして選定され、「都市型多層ごちゃまぜプラットフォーム調査事業」を実施しました。本事業では、神戸市東部（東灘区・灘区）を対象に、高齢者支援、孤独・孤立、多文化共生、担い手不足など、都市部における地域課題に対応するため、多世代が関わる地域活動の仕組みづくりと、その成果・課題の分析を行いました。

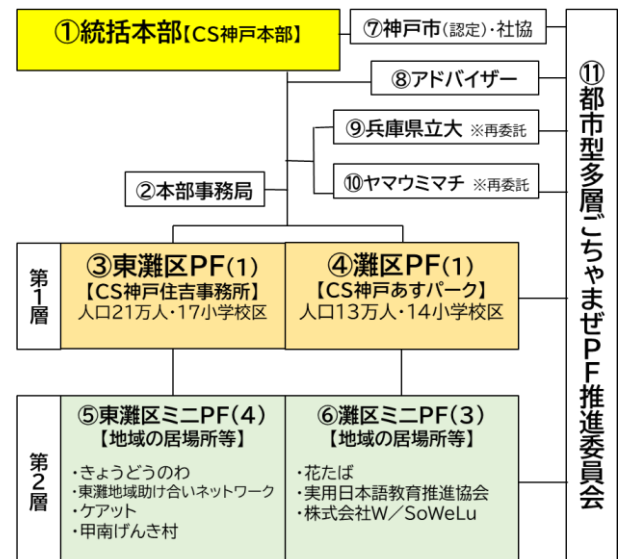
事業では、中間支援機能を担う「区 PF」と、地域住民にとって身近な居場所や交流拠点となる「ミニ PF」による多層型プラットフォームを構築しました。区 PF が企画運営やマッチングを担い、ミニ PF が交流や相談の窓口となることで、多様な住民が地域活動へ参加しやすい環境整備を進めました。

事前調査では、「社会貢献」だけでなく、「楽しそう」「人とつながりたい」といった関心や、人を介したつながりが活動参加を後押ししていることが確認されました。その結果を踏まえ、接点づくりとして、サロン・フェスタやミニセミナーなど、気軽に参加できるセミナーを計 21 回開催し、257 名の参加を得ました。

また、「ごちゃまぜボランティアバンク（V バンク）」を整備し、こども食堂、高齢者支援、日本語学習支援、地域イベントなど、多様な活動とのマッチングを実施しました。学生から高齢者まで幅広い世代が参加し、最終的にボランティア登録者 293 名、募集案件 72 件、マッチング 197 件となり、外国人との交流を目的としたグループ「世界とつながるカフェ」も立ち上がりました。

3 名のアドバイザー（学識経験者）による分析調査では、身近な拠点の存在やコーディネーターとの関係性が、活動参加や継続に大きく影響していることが指摘され、仕組みだけでなく、人と人との信頼関係が地域活動を支えていることも、明らかになっています。関係者全員が参加する推進委員会を毎月実施し、議論を積み上げることが当事業の土台となりました。

一方で、継続的な活動参加につなげる仕組みづくりや、デジタルを活用した導入窓口の拡充などは、次年度への課題として残されました。また、神戸市や社会福祉協議会との連携についても、広報協力にとどまらない協働のあり方を引き続き検討していく必要があります。

**NEW 8 休眠預金活用事業 見えにくい社会課題を解決するコミュニティ創出と組織基盤強化支援（JANPIA 助成事業）**

一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）「休眠預金活用事業」の「活動支援団体」として、全国 4 団体の 1 団体として初採択されました。事業期間は 2025～2028 年の 3 年 3 か月と複数年度に渡ります。①こども・若者支援、②希薄化する地域コミュニティ支援、③外国人支援のいずれかの分野で活動する団体に対し、伴走支援を行うことで、新たなコミュニティの創出と組織基盤強化を支援します。伴走支援により休眠預金の実行団体になり得る組織基盤を備えた団体を創出することも目指します。今年度は来年度からの本格スタートに向けて、第一に支援対象団体を幅広く募りました。公募に関心を寄せた 7 団体を訪問し、支援内容の説明を行いました。第二にオンラインによる公募説明会を行い、8 団体の参加がありました（3/25）。休眠預金をきっかけに団体の現場を訪問し意見交換することで中間支援として求められていることを改めて考える貴重な機会にもなりました。

NEW 9 生駒市こども食堂づくり連続講座（生駒市委託事業）

奈良県内においてこども食堂の数が相対的に少ないという生駒市からの委託で、「こども食堂づくり実践講座」の企画運営を担いました。定員 15 名のところ、40 名を超える応募があり、関心の高さがうかがえました。生駒市で交流拠点運営している一般社団法人無限の協力も得て講座編 5 回・フォローアップ編 3 回のプログラムとし、こども食堂がなかった生駒市北エリアでの立ち上げを目指しました。



講座編では、生駒市の現状、事例紹介を経て、実際にこども食堂を運営するためのトライアルを実施、役割分担、場所の手配、収支の立て方など、こども食堂を運営するための PDCA を一通り体験いただきました。また、フォローアップ編では、会則づくり、事業計画、助成金申請、チームビルディングなどをより実践的にすすめ、最終的に 2 つのこども食堂が立ち上がりました。

NEW 10 70 歳代シニアを応援する地域プロデューサー養成講座（さわやか福祉財団助成事業）

元気な高齢者の多くが地域活動に未参画である現状を受け、彼らを「社会資源」として捉え、その活躍の場を創造し支える人材（地域プロデューサー）を養成することを目的に、「70 歳代シニアを応援する地域プロデューサー講座」を企画・実施しました。さわやか福祉財団や定年後研究所より講師を迎え、CS 神戸の団体立ち上げのノウハウが活かせる研修内容となりました。自治体、企業、NPO 等から 8 団体が参加し、全 3



日間の研修では、実際の支援現場の事例をもとに議論する「ケース・メソッド」を導入しました。多様な背景を持つ受講者による対話を通じて、マインドセットの転換や具体的な支援手法への理解を深めました。市民主体の地域づくりにおいてシニアを活動へとつなぐ中間人材の重要性が再確認され、地域課題の把握から事業化、団体創出、運営支援までを総合的に担う「地域プロデューサー」の有用性と役割について学びました。自主事業化には更なる工夫が必要なため、対象者や研修内容についての議論を深め、実践に結び付けていきます。

11 市民活動サポート基金（自主事業）

今年度も 2 回の選考委員会を実施し、合計 5 団体に総額 355,000 円の助成を行いました。採択された 5 団体のうち 3 団体は設立間もない団体であり、活動実績や資金が乏しい状況の中、設立間もない団体や活動実績の少ない団体でも活用しやすく、事業内容や使途の自由度を備えた本サポート基金を活用することで、活動開始の後押しにつながったことが大きな特徴です。また、これら 3 団体のうち 2 団体は CS 神戸が企画運営する講座や研修から生まれた団体であり、立ち上げ初期の伴走支援と資金支援を一体的に行うことができた点も、本基金の役割を示す成果となりました。

市民活動サポート基金 助成団体一覧

	団体名	事業内容	エリア	助成金額
1	自由演劇倶楽部えん	演劇を通じた多世代の交流により、高齢者のフレイル予防や子どもの創造力の向上を目指す	神戸市内	70,000 円

2	東灘ボランティアガイドの会	地域の魅力を再発見・再認識し、多くの方に発信する	東灘区	100,000 円
3	ほんカツ	本を通じた生きる力の育成と中学生の居場所づくり(コベカツ)	灘区	45,000 円
4	Team 居囀居場所	防菜（防災×プランター菜園）」を通じた市民の地域活動への参加促進	灘区	70,000 円
5	世界とつながるカフェ	地域住民と外国人が交流し相互理解を深める機会の提供	東灘区	70,000 円
計				355,000 円

12 団体活動支援（自主事業）

本部でのメールボックス利用は昨年同様 4 団体、荷物ラックの利用は 1 団体が継続利用となりました。また毎週火曜日・金曜日の野菜・花の販売(丹波等の有機農家と流通販売の 2 店舗を支援)とロビーSHOP(東灘区自立支援協議会のしごと部会に所属する障がい者支援団体による手作り品販売)も継続しました。

13 コーズマーケティング研究会（同研究会より事務局業務を受託）

神戸市内を中心に設置している寄付型自販機 7 台の寄付金額は合計 275,160 円となりました。昨年度からの継続応援団体 3 団体に合計 9 万円を助成するとともに、新規に助成する 2 団体を審査会にて選定し合計 8 万円を助成しました。特に今年度から常設居場所枠（年間 5 万円×2 年間）を設け、よりニーズに即した応援ができるようになりました。

14 各種ネットワーク事務局（自主事業）

近畿ろうきんの近畿圏 NP0 支援センター連絡会議のメンバーとして年 4 回の連絡会議に参加し、近畿二府四県の NP0 支援センターと中間支援の役割について意見交換を行いました。3 月にはフォーラムの幹事団体として「地域が『ツナガル』未来をつくる」をコーディネートしました（「17.居場所立ち上げ・運営支援事業」に詳細）。

15 地域密着型サービス第三者評価事業(介護サービス情報の外部評価・公表調査)（自主事業、兵庫県指定事業）

入居者目線の徹底した評価員合議と、職員を元気にする独自様式の評価報告書で、地域の高齢者グループホーム等を応援する

2011 年より 15 年間に渡り実施した本事業ですが、やむを得ない事情により今年度を持って調査機関としての登録を辞退することになりました。最終年となった今年度は 9 件の訪問調査を実施しました。グループホーム等の良いところを評価し、職員のモチベーションを上げる評価手法は、多くの事業所から好評を得ました。本事業で培った経験を他事業に活かしていきたいと思います。

16 震災 30 年特別企画（自主事業／ひょうご安全の日助成を一部充当）



あすパ・ユース震災語り部隊の協力を得て、全国から集まった 42 名の若者たちを中心とした特別合宿「多様な人と学ぶ神戸の災害文化」を実施しました。NPO 法人 FACIL、あすパ・ユース震災語り部隊の協力を得て、2 日間に渡る合宿で、若者たちが交流を深めるとともに、「平時のつながりが最大の防災」という重要な学びを得ることができました。第 1 日目は

CODE 海外災害援助市民センターより、世界各地での災害救援活動において阪神淡路大震災からの多くの学びが活かされている様子が紹介されました。また、全国 8 校が事前に学習してきた「私たちのまちと阪神淡路大震災」の発表をし、意見交換を行いました。第 2 日目のフィールドワークでは、あすパ・ユース震災語り部隊による灘区成徳地区での語り部を聞き、震災当時の同地区の様子を学びました。地域のつながりの重要性を感じた、同年代のメンバーの語りが響いたという感想が寄せられました。NPO 法人定住外国人支援センターからは、長田区在住の外国人の視点から見た震災の話を聞きました。緊急時には外国人等のマイノリティに対する支援がより必要であることを学びました。

また、別企画として、灘中学校 3 年の有志 23 名の協力を得て、CS 神戸の約 30 年間の歴史を 8 枚のパネルにまとめました。阪神淡路大震災発生の 0 期から、現在の 6 期までの各期について、彼らが印象に残った写真を選び、自分たちの言葉でエピソードを書きました。パネルは CS 神戸本部事務所の入り口に掲示し、CS 神戸の成り立ちを始めて聞くゲストの方々からも好評を得ています。



17 居場所立ち上げ・運営支援事業（近畿ろうきん助成、ひょうごボランティアプラザ助成）

2025 年度は神戸市東部にて、地元企業 10 社による協賛寄付で常設型居場所 10 拠点を応援する「ごちゃまぜかふえ」の仕組みを本格的にスタートさせました。平行して兵庫県立大学、智雲ボランティア活動研究所、NPO 法人きょうどうのわ、CS 神戸で組成する研究会にて、協賛企業への調査を行い、協働のポイントを探りました。

8 月には、白鶴酒造資料館で「ごちゃまぜかふえ トワイライト交流会」を開催し、協賛企業や居場所運営者 57 名が参加しました。居場所の活動報告や交流企画を通じて、参加者同士のつながりを深めました。2 月には、東灘だんじりミュージアムにて「第 10 回 居場所クロスオーバーサミット in 神戸」を開催し、オンラインを含む 70 名が参加しました。調査報告やパネルディスカッション、交流会を通じて、多様な主体が学び合う場となりました。また、協賛企業のひとつである ICT 推進協議会と居場所運営者で「AI×居場所」をテーマとした研究会を開催、最終的に「トロッコゲーム」「妖怪メーカー」「へんしん鏡」の 3 種類の交流アプリが開発されるとともに、それらのアプリを搭載した中古 PC12 台を協議会から居場所へ寄贈いただくことができました。

さらに 3 月には、近畿ろうきん肥後橋ビルで「近畿ろうきん NPO パートナシップ制度 全体セミナー」を開催し、オンラインを含め 58 名が参加しました。近畿各地の居場所関係者や専門家、労組関係者が集い、地域間連携を深めました。

これらの取り組みを通じて、地域で「ツナガル」ことの重要性や、企業と居場所双方における「リソース不足」「見える化」の課題が明らかになりました。また、居場所は時間をかけて効果が現れる「こころのラジオ体操」「地域の漢方薬」のような存在として捉える必要性が示されました。



【トワイライト交流会】

事業報告 ―地域活動事業部―

18 JR住吉駅前駐輪場管理運営業務（神戸市指定管理事業）

安心・安全を見守る NPO 運営の駅前駐輪場ステーションとして高齢者・障がい者がともに働きスキルアップをし、地域と協力してまちづくりに貢献する

市が招集する「駐輪場のあり方検討会」にオブザーバーとして参加しました。自動化・設備導入・省人化による赤字・担い手不足の解消の議論が議題の中心となる中、まちづくりへのソフト面の貢献を提言し、NPO 等地域組織による駐輪場運営の枠組み継続の成果を得ました。また、スタッフからの改善提案は 52 件となり、前年に比べて 18.6%増となりました。提案から労災事故防止に取り組み、中央労災防止協会へ依頼し施設、設備自主監査で危険箇所改善 12 件の実施、危険予知訓練及び健康体操講座(12/24)など職場環境の改善を行いました。加えて、ウェブシステム利用改善の為、ICT 事業者による研修(12/25)を行い改善を進めました。

地域貢献活動は、近隣中学校からのトライやるウィークを受け入れて挨拶・声がけ運動を一緒に進め、また、障がい者、店舗、地域団体の「駅前清掃ボランティア活動」は累計参加者が 538 名となり、前年比 16%増を達成しました。12 月から 1 月にかけては、新たに障がい者事業所と連携し「みんなの作品」駅前展示会」を実施し、作品提供者や駐輪場利用者より定期開催要望の声がありました。SOS ネット認知症見守り活動、雑草刈り、花壇づくりを継続し、地域の見守りステーションになることを目指しました。駐輪場管理責任者連絡会を開催し、「駐輪場のあり方検討会」の議事内容と第 6 期指定管理公募の情報交換を行いました。駅前防災情報拠点づくりの活動は、次年度に引き継ぐ課題として残しました。



【駅前ミニギャラリー “みんなの作品展示会”】



【トライアルウィーク “挨拶・声掛け運動”】

19 まちづくりスポット神戸管理運営事業（大和リース株式会社との協働事業・自主事業）

商業施設の立地を活かし、世代や立場を超えて協働を促進するとともに、地域ニーズにマッチした活動を展開する。

2025 年度、まちづくりスポット神戸（以下、まちスポ）は多くの方々に支えられて 12 周年を迎えました。コロナ後に参加者が回復した 2023 年や 2024 年には届かなかったものの、広報に注力（SNS による発信やニュースレター再開等）するなど工夫や試行錯誤をした一年となりました。コミュニティルームのイベント参加者数についても昨年度より約 10%減少しており、原因としてこれまで集客人数が多かったイベントの主催者が活動を休止していたり、定期利用する複数の子育て支援団体の集客数がいずれも減少していることが積み重なり、総参加者数減少にもつながったことが分かりました。そこで、既存の登録団体の応援に加え、新たな登録団体の開拓を行

った結果、12 団体を新たな会員に迎え、それらの会員によってコミュニティルームの新規イベントも 17 件増やすことができました。新しい会員のイベントの多くは、まだ集客が少ないため、広報はもちろん、登録会員間の交流・コラボレーション等の支援も図り、その活動が地域の人々に受け入れられ、益々発展するように伴走していきます。細やかな支援の積み重ねにより、主催者のモチベーションがアップし、地域の人々の参加機会と選択肢が増え、その結果、まちスポの総参加者数増加につながっていると考えています。

また、今年度開催した主なイベントとしては、10 月に登録会員による実行委員会企画する「みんなのフェスティバル」、そして、登録会員はもちろん、垂水消防団、大学（神戸市外国語大学、流通科学大学）・高校（神戸高専・舞子高校）等、様々な立場の方々と防災イベント「みんなで“まなぼうさい”」を 3 月に開催しました。どちらも、のべ 1,400 人程の参加があり、大変盛り上がりしました。



【2025 年 10 月 25 日みんなのフェスティバル】



【2026 年 3 月 8 日みんなでまなぼうさい】

20 神戸市予約図書受取コーナー／まちスポらぼ（神戸市委託事業／自主事業）

ブランチ神戸学園都市予約図書受取コーナーは 7 年目になりました。昨年度に引き続き、2025 年度も神戸市内 17 か所ある予約図書受取コーナーの中で取り扱い冊数が 2 番目に多い予約図書受取コーナーとなりました。2025 年度は、図書クルー 2 名増員し、9 名体制で予約図書受取コーナーを運営しました。来館者が特に多い土日は、図書クルー 4 名体制で業務に当たり、人為的なミスを減らし、来館者の待ち時間を無くすよう配慮しました。利便性の良さや図書クルーの対応の良さにより、貸出人数 100 名/日を維持し続けています。2025 年度は予約図書とまちスポらぼを併せて年間 27,503 名の利用がありました。

まちスポらぼの活用については、らぼの左右の壁にピクチャーレールを設置し、7 月から市民ギャラリーとして利用できるようにしました。その結果、近隣住民による写真展の開催、神戸市埋蔵文化財センターによる神戸市所蔵の国宝の紹介展が開催されました。特に後者は新聞や広報紙で広く告知されたことから、多くの参加者が訪れました。



【らぼの市民ギャラリー利用：
神戸市埋蔵文化財センター「鬼カツ」】

21 生きがい活動ステーション運営事業（神戸市民文化振興財団委託事業）

生活の中にある文化・アートを通じて、地域住民が交流する機会を創出するとともに、楽しみながら地域貢献できるようサポートする

今年度も、「文化・アート」にまつわる多岐にわたる「生き活 1 day 講座」（楽しく学ぼう建築の世界／お金のはじまり／キッズマネーアカデミー／はじめての南京玉すだれ体験講座／彫刻探訪／絵本作家・小原絢子講演会

とワークショップ／暦のお話と書のワークショップ／灘のだんじり）や「大人の部活」を実施して、地域のみなさんが学びながら交流できる場を提供し、年間来所者・訪問者数は8,267名（昨年度比105%）でした。

2024 年度から実施している 6 つの「大人の部活」から、4 つのグループ（やさしいお絵描き同好会／倶楽部ちくちく／なだっこバルーン／六甲道落語倶楽部）が結成されたのは大きな成果でした。現在活動中の「カリンバ部」「あみぐるみ部」「ペーパークラフトクラブ」についても立ち上げに向けて支援していきます。

特筆すべき点は、落語部の卒業公演を皮切りに、灘区文化センターロビーで「ランチタイムロビーパフォーマンス」を始めたことで、身近な音楽やアートを目と耳で気軽に楽しむ機会を創出しています。また、ワラビーと連携し、「文化・アート」にまつわるボランティア情報を抽出して紹介することで、「手ぶらで帰さない」のモットーを実現しています。「ここに来ると何かに出会える！」と好評を得ています。



【ランチタイムロビーパフォーマンス・落語部卒業公演】



【1day 講座・お金はじまり～見て、触れて、学ぼう！】

22 地域共生拠点・あすパーク運営事業（自主事業）

誰もが立ち寄り活動できる“あなたの居場所”であるとともに、地域の課題解決プラットフォームの機能を発展させる

あすパークは開設 6 年目、年間訪問者数は 7,200 人となり、28 団体が活動拠点として定期利用しています。多世代交流・つながりづくりの拠点と、地域の課題解決型の団体の創出を目標とし、今年度はなだ実践ゼミ修了生による 2 団体の立ち上げを支援することができました（野菜づくりにより防災活動をする「Team 居囲居場所」、子どもが地域活動の担い手になる「こども企画舎」）。地域のつながりづくりでは、成徳マルシェなど地域自治会や近隣のこどもの居場所との協業イベント等により近隣地域の交流の機会を増やすことができました。

また、今年度は神戸市のふるさと納税のクラウドファンディングに挑戦し、約 80 万円の寄付金を集めることができました。施設の維持・発展や、新企画に活用する予定です。また、利用団体の満足度向上策として、今年度実施したニーズ・改善要望のヒアリングの結果をもとに、課題である団体間のつながり・交流不足を解消すべく、今後は団体間の交流やコラボ企画にも力を入れていきます。



【地域交流：成徳ふれあいマルシェ】



【「防菜プロジェクト」による菜園用木箱づくり】

23 兵庫型シニアショートワーク事業（兵庫県雇用開発協会委託事業）

仕事切り出しや協同労働を通じ、シニアのニーズとしごとの接点を拡張し、希望に応じて働き続けられるモデルを創出する

企業の定年延長が進み、地域活動の中心層も 70 歳代から 80 歳代が占める状況になる中、就業意欲が高いシニア層の増加に対しその意欲を吸収する企業等の体制は未だ整っていないのが現状です。高齢者の活躍の場を、地元に必要な仕事を自ら作り出し、最低賃金を適用する手法の積極導入が重要になっています。6 年目となる今年度は、昨年度に引き続き「しごとの切り出し」と「しごとの創り出し」の 2 つを重点として活動しました。



【第 4 回協同労働セミナー】

「切り出し」では、人手不足業界を中心とした介護関係・ビル管理・清掃関係に加え、今年度は日本語講師や冠婚葬祭業の事務職に注力しました。結果として職種別求人数は、清掃系 112 件につぎ事務系が 94 件を占め、目標数値を大幅に超えて、高齢者の事務系業務の開拓に寄与することができました。また「しごと創り出し」では、本年度も「協同労働ミニワーカーズ実践塾 2025」（全 10 回）を開催しました。労働者協同組合としての活動を検討する様々な個人・団体が参加し、「そば処淡竹」が労働者協同組合として再始動することとなりました。これまでの実践塾を通じて立ち上がった労働者協同組合は計 5 法人、法人格を持たないミニワーカーズは 1 団体となっています。

また、3 月には「第 4 回協同労働セミナー」を開催し、73 名の参加を得て、協同労働による就労機会創出と社会貢献を考える貴重な場となりました。